

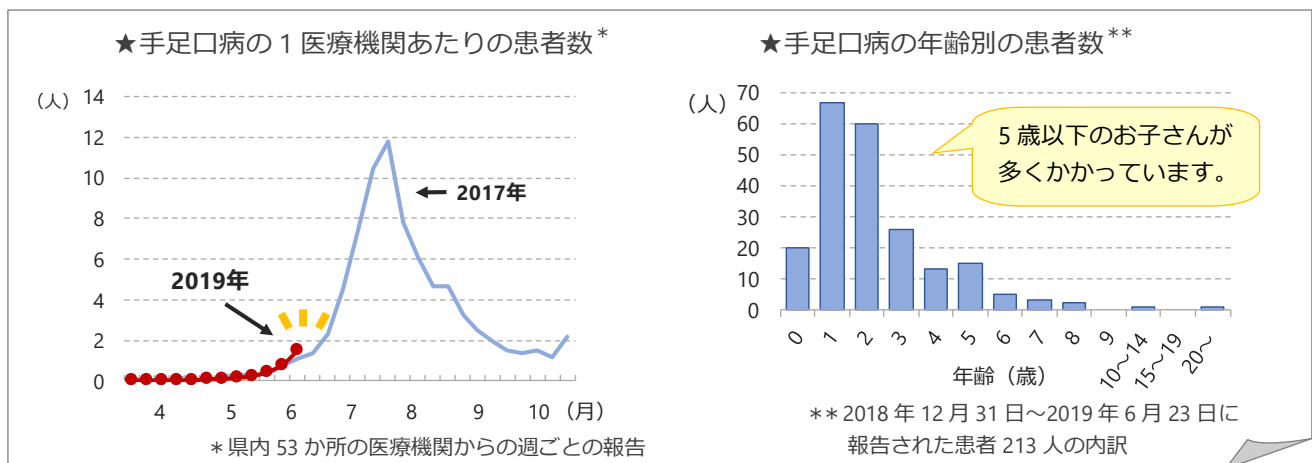
ぎふ感染症かわら版

令和元年 6月28日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



手足口病の患者が増え始めています！

子どもの夏かぜの一つである手足口病の患者が県内で増え始めています。近年では1年おきに大きな流行がみられており、今年は流行が予想されています。すでに九州など西日本では大きな流行となっており、県内でも今後患者がさらに増えることが予想されますので、お子さんは注意が必要です。



どんな病気？

手足口病は、コクサッキーウイルスなどのエンテロウイルスに分類されるいくつかのウイルスにより起こります。

感染してから3～5日後に、**手のひら、足の裏や甲、口の中などに小さな水疱（水ぶくれ）**が現れます。また、**軽い発熱**がみられることもあります。

多くの場合3～7日ほどで自然に治りますが、まれに髄膜炎を起こすことがあります。



夏かぜのヘルパンギーナも同じ仲間のウイルスによって起こります。

どうやってうつるの？ 予防方法は？

エンテロウイルスは、感染した人の唾液や便の中に出てくるため、それらに触れた手指や（**接触感染**）、咳やくしゃみ（**飛沫感染**）によってウイルスが口や鼻に入ることです。



予防には、**石けんを使った手洗い**が大切です。

特にトイレの後や、お子さんのおむつ交換をした後は石けんで手を洗いましょう。

唾液のついたおもちゃなどは洗淨・消毒しましょう。

便へのウイルス排せつは、症状が治まった後も2～4週間続くことがあり、長い間周りの人への感染源となるので注意が必要です。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

